

【第五回検討会】 日時：平成30年5月30日（水）

午前10時00分～正午

第五回検討会では、中間報告を踏まえたうえで、高齢化や人口減少が今後進んだ時にどのような変化が予想されるのかを、各委員からご意見を頂きました。

議論の視点としては、10年後の生活をイメージしたうえで、①隣近所や親せきで助け合ってきた除雪や日常支援は今後も可能であるのか？②集落や班単位で行って来た仕組みは維持できるのか？③地縁による自治組織がどこまで対応できるのか？④若者や女性、企業や団体と連携することは可能か？の4つの視点で議論頂きました。



委員からは「隣近所の助け合いは、軽作業はまだ続けていけると思うが、除雪などはだんだんと難しくなっていくと思う。」「地域によって課題や仕組み、地域性も大きく異なるので、全町一律の仕組みは難しいと思うが、検討会や役場からいくつかのパターンを示すことが必要ではないか？」「人口減少するなかで空家は増えていく。管理や斡旋をする仕組みを作り、人口増につなげる取組も大切。」「自治会長になると様々な充て職や兼務がある。自治会長だけならやれるが、詳しくない分野の委員になる事は、会議を主催する側にも参加する自治会長にも、双方にとって良

い方法だとは思わない。」「人口が多い自治会でも、昔から住んでいる地域と新興住宅地が混在している地域は、一つの自治会として共通認識が持てない分野も出ている。」といった意見が出されました。

また、オブザーバーとして参加いただいている、若菜千穂さん（特定非営利活動法人いわて地域づくり支援センター常務理事）からは、「県内の状況を見ると、40世帯を下回ると、事業が出来なくなるなどの影響が出ているところが多い。ただ、自治会の統合をすればよいかという話でもないと思う。これまでの仕組みや役割を変えていくことで、持続可能な地域づくりに繋がるのではないか。」とお話を頂きました。